



第76回
早慶
バスケットボール
定期戦

2018.07.07 (土)

場所：大田区総合体育館

-
- | | | |
|-------|-------|---------------|
| 09:30 | 《開場》 | |
| 10:00 | 《OG戦》 | 7分スルー / 4Q |
| 11:00 | 《OB戦》 | 7分スルー / 4Q |
| 12:00 | 《開会式》 | 選手整列 / エール交換 |
| 12:30 | 《女子戦》 | 10分 / 4Q |
| 14:30 | 《男子戦》 | 10分 / 4Q |
| 16:00 | 《閉会式》 | 選手整列 / 優勝校表彰等 |
-

主催：早稲田大学バスケットボール部・慶應義塾体育會バスケットボール部

🏠 <http://www.waseda-basketball.com/>

🏠 <http://keio-basketball.com/>

写真提供：佐藤 雅典・田村 浩一・船生 佳寿子



部長
大谷 俊郎
慶應義塾大



監督
権田 哲也
慶應義塾大



H・コーチ
阪口 裕昭
慶應義塾大



A・コーチ
吉崎 正雄
慶應義塾大



A・コーチ
大元 孝文
慶應義塾大



A・コーチ
小高 観津夫
慶應義塾大



S&C・コーチ
木塚 孝幸
慶應義塾大



A・トレーナー
木畑 実麻
慶應義塾大



学生コーチ
小川 翔平
大宮開成
総合政策 4



学生コーチ
宇野 晋一郎
慶應義塾志木
商 4



学生トレーナー
小祝 良介
慶應義塾湘南藤沢
経済 3



主務
野田 遼太郎
慶應義塾
政治 3

主将



4 とば **鳥羽 陽介**
(環境情報 4)

- ① G ② 180 ③ 82
④ 福大 大濠
⑤ チームを勝利へ導きます！

副将



5 はら **原 たくみ**
(環境情報 4)

- ① G ② 166 ③ 69
④ 近大 付属
⑤ 慶應に勝利と感動を！



6 こはら **小原 りく**
(政治 4)

- ① G ② 168 ③ 67
④ 慶應義塾志木
⑤ 時ぞ今



7 さわちか **澤近 ともや**
(環境情報 4)

- ① F ② 184 ③ 87
④ 高知学芸
⑤ 必勝



8 きしき **吉敷 しゅうた**
(政治 4)

- ① F ② 178 ③ 75
④ 慶應義塾志木
⑤ 七年分の思いを込めて戦います。



9 やまさき **山崎 じゅん**
(総合政策 3)

- ① G ② 178 ③ 86
④ 土浦日大
⑤ 絶対勝つ



10 たかだ **高田 あつき**
(環境情報 3)

- ① G ② 187 ③ 86
④ 城東
⑤ 勝利に貢献します。



11 いわかた **岩片 ゆうま**
(環境情報 2)

- ① F ② 188 ③ 82
④ 広尾学園
⑤ 一生懸命頑張ります



12 くどう 工藤 しょうへい 翔平
(政治 3)

- ① G ② 183 ③ 83
④ 慶應義塾
⑤ 頑張ります



13 いずみ 泉 ときお 友樹雄
(経済 3)

- ① G ② 178 ③ 77
④ 慶應義塾志木
⑤ チームに尽くします。



14 こうたに 甲谷 ゆうへい 勇平
(環境情報 2)

- ① G ② 175 ③ 75
④ 東山
⑤ sticky に clever に



15 てらべ 寺部 ゆうすけ 勇佑
(環境情報 2)

- ① G ② 169 ③ 68
④ 洛南
⑤ 熱くなるハッスルプレー期待して
ください!



16 つのぢゆうき 津野地宥樹
(政治 2)

- ① F ② 184 ③ 86
④ 慶應義塾志木
⑤ 盛り上げます



17 ふじい 藤井 ようすけ 陽右
(政治 2)

- ① G ② 176 ③ 72
④ 慶應義塾
⑤ 粉骨砕身



18 やまもと 山本 じゅんぺい 純平
(商 2)

- ① G ② 179 ③ 73
④ 慶應義塾志木
⑤ 全力投球!



19 ひとみ 人見 かい 快
(法律 1)

- ① G ② 170 ③ 70
④ 慶應義塾志木
⑤ 1年生らしく頑張ります



20 おざわ 小澤 りきや 力哉
(経済 1)

- ① G ② 182 ③ 75
④ 慶應義塾
⑤ 絶対勝つ



MEMBER — 慶應義塾大学〈男子〉

氏名	学部	学年	ポジション	身長	体重	出身校	自己アピール
鈴木 慧 <small>すずき あきら</small>	法律	3	学生コーチ	178	75	慶應義塾	一所懸命がんばります。
片桐 俊哉 <small>かたぎり としや</small>	経済	3	学連派遣	174	70	松本秀峰	勝敗数で並びます！
吉岡慶一郎 <small>よしかげいいちろう</small>	商	3	副務	184	84	慶應義塾	必勝
杉田 雅虎 <small>すぎた まさむら</small>	商	2	マネージャー	170	65	慶應義塾湘南藤沢	勝って笑顔で
山内 悠生 <small>やまうち ゆうき</small>	法律	2	マネージャー	169	67	慶應義塾	去年の雪辱を晴らしに来ました
木村 直哉 <small>きむら なおや</small>	政治	2	塾高コーチ	177	70	慶應義塾	一生懸命頑張ります
前田 琉我 <small>まえだ りゅうが</small>	経済	2	学連派遣	182	78	慶應義塾志木	早慶戦優勝！
大西 満 <small>おおにし みつる</small>	理工	1	学生スタッフ	173	70	慶應義塾	頑張ります





部長
大谷 俊郎
慶應義塾大



監督
村林 祐子
慶應義塾大



H・コーチ
庄司 良彦
慶應義塾大



S・コーチ
木塚 孝幸
慶應義塾大



C・コーチ
伊藤 恵梨
高知大



学生トレーナー
阿部真璃奈
立教女学院
経 4



主務
松浦 紗季
慶應義塾女子
文 4



マネージャー
山崎結香子
湘南
文 3



マネージャー
ビディンガー美亜
青山
商 1



4 もりかわ
森川 唯加
(経済) 4)

- ① G ② 157
③ 慶應義塾女子
④ 最後の早慶戦全力で頑張ります！



5 いそべ
磯部 紗希
(文) 4)

- ① G ② 157
③ 國學院久我山
④ 最後の早慶戦、思い切ってプレーします。



6 とよむら
豊村 沙恵
(商) 4)

- ① C ② 170
③ 慶應義塾ニューヨーク学院
④ 最後の早慶戦楽しみです！



7 たかせ
高瀬 かりん
(経済) 4)

- ① C ② 166
③ 広尾学園
④ 最後の早慶戦、慶應しか魅せられないものをみせます。



8 いのもとみやこ
井ノ本雅子
(商) 4)

- ① G ② 159
③ 四天王寺
④ どんな時でも恐れずに挑戦し続けます！



9 わだ
和田かおる
(理工) 4)

- ① F ② 158
③ 東邦大学附属東邦
④ チーム一丸となって頑張ります！



10 うめき
梅木 理沙
(経済) 3)

- ① F ② 166
③ 慶應義塾女子
④ できることを精一杯やりきります。



11 ころすえ
頃末 沙樹
(理工) 3)

- ① G ② 156
③ 慶應義塾湘南藤沢
④ チームのために力を尽くして頑張ります。



副務



12 やまざき たえ
山崎 多絵
(政治 3)

- ① F
- ② 167
- ③ 日比谷
- ④ 全力を出し切って頑張ります！



13 しげまし しほ
重増 志保
(環境情報 3)

- ① F
- ② 163
- ③ 玉川聖学院
- ④ チームに貢献できるよう全力を尽くします。



14 うめだ かおる
梅田 香
(環境情報 2)

- ① C
- ② 174
- ③ 慶應義塾ニューヨーク学院
- ④ チームに貢献できるよう全力で頑張ります。



15 しらふじ ゆうか
白藤 優果
(理工 2)

- ① G
- ② 145
- ③ 東京学芸大附属
- ④ チームに貢献できるよう全力でがんばります。



16 あだち はな
足立 はな
(法律 2)

- ① F
- ② 164
- ③ 聖心女子学院
- ④ 日々の練習の成果を発揮し、自分のプレーを100%出すことができるよう努めます。



17 こぶくがわまりな
小福川 莉奈
(法律 2)

- ① C
- ② 169
- ③ 慶應義塾ニューヨーク学院
- ④ チームに貢献できるよう、全力を尽くします。



18 すとう しほ
須藤 史帆
(文 2)

- ① F
- ② 162
- ③ 平塚江南
- ④ 全力で頑張ります！



19 むとう れい
武藤 怜
(商 1)

- ① C
- ② 169
- ③ 成蹊
- ④ 常に全力で頑張ります！



20 ましお ひとみ
眞尾 瞳
(商 1)

- ① G
- ② 165
- ③ 浦和第一女子
- ④ 声を出してチームのために頑張ります！



21 にし りな
西 理奈
(政治 1)

- ① C
- ② 168
- ③ 蒼合
- ④ 自分のできることを精一杯します！



MEMBER — 慶應義塾大学〈女子〉



早慶



VS



ランキング対決!



選手の中で〇〇なのは誰か? という質問を両大学の選手にアンケート。

大学別に、得票数に応じてランキングした。

バスケに関することから私生活に至るまで、選手の知られざる一面を垣間見ることのできるこの企画は必見!!

1. 結婚したい人は?



- 1位 小室悠太郎 (社会学2年)
- 2位 長谷川 暢 (スポーツ科4年)、菅 祐史 (スポーツ科4年)、曾我 亮太 (商4年)
- 3位 本多 右京 (先進理工3年)



男が理想とする「結婚したい男」には、一体何が求められるのだろうか。大いに票が割れたこの激戦を制したのは、北陸から来た男、小室悠太郎。本人曰く「誰が三十代や!」。その大きな体から溢れる包容力はすでにパパの貫禄。皆を虜にしてしまうその朗らかな笑顔と調和を好む温厚な性格、両親が医者なので後ろ盾もバッチリ。大きなお家に大好きなコーギーと柴犬を飼うのが理想という彼。必ず幸せな家庭を築くことを勝手に保証しよう。

2位にはイケメン4年生トリオ、長谷川暢・菅祐史・曾我亮太がランクイン。朝目覚めれば「側にイケメンの微笑みが待っている」なんて、最高の目覚めすぎませんか? もちろん、選考理由は顔だけではない。女性に対する優しさ、スマートさも兼ね備える彼らはまさに紳士。彼らの日頃の人気ぶりを見ていればこのラインナップも納得できる。何より、こんなに支持率の高い4年生、彼らは将来性を期待できる最高の代であるここに明言させて頂く。

3位は副務の本多右京。理工であるがゆえか? 機械に強い。マネージャーなので帳簿の管理もばっちり。仕事だけではなく、家庭に必要なことすべてを卒なくこなすことができる。彼のような男こそ家庭にいたら大助かり! まさに理想の旦那さんと呼ばれるべき人物である。



- 1位 澤近 智也 (環境情報4年)
- 2位 高田 淳貴 (環境情報3年)
- 3位 甲谷 勇平 (環境情報2年)



1位 土佐の禁断の果実こと澤近智也。試合ではインサイドで果敢に攻める本塾の大黒柱だが、私生活では一転優しくピュアな言動を繰り返すというギャップの持ち主。甘い訃りとバスケ部随一の筋肉に惚れない女などいないだろう。部内で誰かが女性の話をしている時に真っ先に食いつくのも、チャームポイントの1つである。

2位 1年の時からチームの中心として活躍してきた、高田淳貴がランクイン。高身長で筋肉質なその身体と、高打点から放たれるシュートに思わず見惚れてしまう部員も数知れない。そんなモテ男はその大きくたくましい顔により複数の女性からアタックされることもしばしば。最近の噂によると、バスケ日本代表の"AKATSUKI FIVE"ならぬ"ATSUKI FIVE"というファンクラブが結成されたとか。

3位 本塾のプリンスこと甲谷勇平。京都出身の彼は持ち前の関西ノリで先輩に時にタメ口を使い、笑いのノリがわからない部員には容赦なく罵声を浴びせる。一方、デートの誘いは断れないという心優しい一面もある。しかし、デートには特に面白くもない彼のギャグが延々と付きまとう。更には記念日を忘れるほど無頓着であるため女性陣は要注意だ。

2. 無人島に連れて行きたい人は？



- 1位 牟田 朋晃 (スポ科2年)**
2位 富田 頼 (スポ科4年)
3位 小室悠太郎 (社学2年)

「ダイビング中にインストラクターとはぐれ、酸素が無くなりました。」「登山中に高山病と低体温症の合併症を引き起こしました。」「数々の死地を乗り越えてからこそ今の自分があるのです。」と彼は語った。1位は圧倒的得票を誇った山の申し子、牟田朋晃。そのフィールドが孤島に変わっても彼の生命力は衰えることを知らない。少しでも時間ができれば絶景を撮りに行き、オフの全てを自然と過ごすことに使う男。絶体絶命の状況でも、彼と一緒に明日の日の出を拝めるだろう。



2位には早稲田が誇る最強の男、富田頼。「生活の知恵がすごい」「半端ない生命力」などの評価を受ける。牙え渡った彼の野生の勘があれば、誤って毒キノコを…なんて事態も回避可能。たとえ未確認生物が襲いかかってくるがあっても、強烈なタックルで返り討ち。崖から落ちそうになってもそのたくましい腕力で引き上げる。困った時はなんとかしてくれる男。これぞ我ががライさん!!

「食べないと死にます」——3位は小室悠太郎。最終的には彼を非常食にするという猟奇的な意見も。食料燃費に課題はあるが、力仕事にはもってこい。何より人間社会から遮断されたその島でも、ポジティブな小室と一緒なら寂しいはずがない。自慢の歌をBGMにして乗り切ろう。



- 1位 吉敷 秀太 (政治4年)**
2位 工藤 翔平 (政治3年)
3位 藤井 陽右 (政治2年)

1位 コートを縦横無尽に駆け巡り、ボールが床に転がれば、喰らいつく。泥臭く、熱い漢である。その姿はまさに本塾の気高き蒼き、いや毛深き蒼き猛獣。無人島で彼がいたらどれだけ頼りになるか。ライオンくらいであれば軽く汗で追い払ってくれるだろう。



2位 伝説を残し続ける男、SHOHEI。彼は常人には考えられない練習量をこなし、ボール運びからインサイドプレーまでもこなすオールラウンダーに成長した。また練習外でも常人には考えられない言動でみんなを楽しませてきた、本塾の愛されキャラ。無人島でその常識破りの思考に頼りたいという部員の思いが強かったのだろう。

3位 伝説の兄を持つ藤井陽右は、どんなに緊迫した試合でもシュートを決める兄譲りの強いハートの持ち主。試合外ではその短足胴長のフォームと独特な笑いのセンスに定評があるが、1日の半分以上を他人の家で過ごす居候癖でチームメイトを度々困らせる。そんな一見変わった彼だが、最低限の常識と最低限の学力、最低限の足の長さは兼ね備えている為、無人島でも最低限は働いてくれるだろう。

3. ベストコンビは？



- 1位 岡野 佑紀 (スポ科4年) & 菅 祐史 (スポ科4年)**
2位 山内 大樹 (教育4年) & 長谷川仁哉 (教育2年)
3位 山内 大樹 (教育4年) & 矢作香穂里 (スポ科4年)

「負けるわけじゃないでしょ。」これが岡野の第一声であった。ベストコンビ堂々の二連覇を成し遂げたのは愛し合って4年目、岡野佑紀と菅祐史のコンビ。自他共に認めるその友情はどのようなものか。学校、部活、私生活、いつでもどこでも二人は一緒。お互いについて、菅は「当たり前だけどなくてはならない空気のような存在」。岡野は「アホさでさえ愛おしい」と表現。「帰省中でも連絡を取り合う」「卒業後がすでに寂しい」など、二人の仲良しエピソードは、周囲にまでも幸せを分け与える。これぞ一生もの友人であろう。微笑ましい二人の行く末に幸あれ。



2位は山内大樹・長谷川仁哉の教育学部コンビ。「山内あるところに長谷川あり」というように、二人はいつも一緒。バスケットだけではなく様々な競技をともに楽しそうに取り組んでいる姿は、まるで兄弟のよう。

3位は宿敵コンビ、山内大樹と矢作香穂里。「喧嘩するほど仲が良い」とはこの二人のためにある言葉と言っても過言ではない。どこまでがネタなのか、もはや部員の推測の域を超える。



- 1位 鳥羽 陽介 (環境情報4年) & 小川 翔平 (総合政策4年)**
2位 山崎 純 (総合政策3年) & 小祝 良介 (経済3年)
3位 宇野 晋一郎 (商4年) & 杉田 雅虎 (商2年)

1位 本塾のサトシ&ピカチュウコンビ。下級生の時からそれぞれチームの中心としてバスケット部を牽引してきた。そんな2人も今では主将とコーチという立場で昼夜問わず常に行動を共にしている。このランキングを目にした部員も納得の結果だろう。



2位 2位は本塾のとんねるずがランクイン。2人は大学で出会うと、波長が同じであると直感的に感じ取り意気投合。以来2人は度重なる相組に二人三脚で立ち向かってきた。学生トレーナーである小祝はどんな状況でも負けない身体を山崎に授けた。彼らは今回の早慶戦でも何か魅せてくれるに違いない。

3位 本塾のうちは一族。名門慶應義塾の付属校から名門慶應義塾大学商学部に進学したエリートたち。バスケットボール部そして商学部で社会の先導者になるための一子相伝の術を後輩である杉田に教えている宇野。膨大な時間と単位を引き換えに杉田をより完璧な後継者へと育成する道を選んだまさにグレートリーダーである。

4. エプロンが似合う人は？



- 1位 富田 頼 (スポ科4年)
- 2位 香川 泰斗 (人間科3年)
- 3位 三島 大河 (文2年)

「切ったらええだけやし」——全てをこの言葉で片付ける男、富田頼が1位を獲得した。居酒屋やホテルの調理補助を経験し、盛り付けだけは完璧と断言。その熟練した技は最早プロ級なのではないだろうか。板前姿…みなさん想像できましたか？彼の父親は元料理人。その血をしっかりと引き継いでいる。食べたいものをリクエストしたら、なんやかんや言いながらどんなものでも作ってくれそうなのが彼である。



2位は最近一人暮らしを始めた香川泰斗。おしゃれなカフェでのバイト経験を活かした彼の作るお茶漬けは絶品。鼻歌をうたいながら卵焼きを作る姿、にこやかにモーニングセットを提供する姿、なんでも想像できるが、実際一番似合うのは彼自身が美味しそうにご飯を食べる姿である。いっぱい食べる君が好き♡

3位は三島大河。某コーヒショップで培われた「爽やかさ溢れるエプロン姿」が連想される。ママの美味しいご飯が待っている実家暮らしの彼だからこそ、家庭力が培われているのかもしれない。そんな彼の得意料理は「ミラノサンドC」。



- 1位 鳥羽 陽介 (環境情報4年)
- 2位 宇野晋一郎 (商4年)
- 3位 泉 友樹雄 (経済3年)

1位 本塾キャプテンのこの男。彼はチームを勝利へ導くプレーのみならず学業においても成績優秀。さらに長年の寮生活で身につけた料理の上手さも持ち合わせた、まさに三拍子揃った”デキる男”だ。そんな彼がエプロンを着て似合わないわけがない。必見である。



2位 本塾のポイズンクッキングこと宇野晋一郎。あのハンサムな顔立ちから放たれる毒舌によって料理された後輩は数知れず、今日もどこかで後輩たちが反撃の機会を伺っている。また実家が大富豪である彼にとって、家のご飯はシェフが作ってくれるものだと思い育ってきた。イケメンで大富豪うえに、バスケット部で文武両道を体現する慶應ボーイな彼にとってエプロンが似合わないなど許されないのである。

3位 本塾の1匹狼こと泉友樹雄。誰よりもチームに尽くし、誰よりもチームの為に厳しく後輩を指導する彼だが、少々いき過ぎた綺麗好きである。人の作った料理は決して食べず、自分の作る料理しか食べない。彼の家に入ってまず言われることは「まず風呂に入れ」。そんな潔癖の泉がエプロンを身につけている姿はお母さんそのものである。

5. 草食系男子な人は？



- 1位 高阪 俊輔 (社学3年)
- 2位 島村 隼太 (スポ科2年)
- 3位 中谷 誠人 (商4年)

草食系男子の定義とは。

「どうやったら彼女ができるんですか？」——1位は高阪俊輔。ひと昔前の昭和の不良感とその要因なのかもしれない。まるでその筋のお方であるかのような外見。しかしその外見とは裏腹に、とお～っても優しい性格の持ち主である。心配しなくても大丈夫！彼の隠された魅力に気づいてくれる素敵な女性が、きっともうすぐ現れるから心配しないでほしい。



2位は学生コーチの島村隼太。基本的に穏やかな性格で、滅多に声を荒げない。お坊ちゃんであるがゆえか、紳士的な振る舞いはお手の物。しかし何と言っても「島村=メガネ」の印象はあまりにも強い。コンタクトをしているのにメガネをかける奇行の真意を知るものは誰もいない。

3位は中谷誠人。バスケット、私生活共に独特の持論を展開する彼だが、女性を目の前にすると思惑回路がショートするのか？通り一辺のことしか話せなくなる。運よく彼と議論を交わせた女性のみ彼の良さに気が付くことが出来るだろう。



- 1位 小原 陸 (政治4年)
- 2位 小川 翔平 (総合政策4年)
- 3位 岩片 悠馬 (環境情報2年)

1位 本塾の韋駄天小原。力強いドリブルとチーム1のスピードの持ち主だ。私生活では後輩からいじられても決して怒らず、むしろ喜んでいる。女性に対してはガツガツ行かず、さりげない気遣いでポイントを稼ごうという計算高い一面もある。その計算された行動と鍛え抜かれた強靱な足腰によって超人的なフットワークの軽さを誇り、度々の隠密行動から誰にも気づかれないことなく驚異的なスピードで彼女を作ったことでも有名である。



2位 本塾のブレッグ・ポポビッチこと小川翔平。強烈なリーダーシップで本塾を勝利に導く名将だが、恋愛ではターンオーバーを連発している。バスケットボールスキルを極めた彼は敵の戦術を手取るように読むことができるが、女を読むことに関しては困難を極めている。失敗を恐れずに挑戦し続ける”マンバメンタリティー”をモットーに今日も彼はiPhoneを右に左にスワイプする。

3位 本塾のダングマシン岩片。彼の驚異的な跳躍力から繰り出されるウィンドミル・ダングは多くの者を魅了する。しかし、コートを離れると圧倒的な影の薄さで度々見失ってしまうことも。自然豊かなSFCキャンパスで1人道端の草を食べる姿も何度か目撃されており、リアル草食系男子とも名高い。もし彼が1人草を食べているのを見かけたら是非とも話しかけて頂きたい。

6. サッカーがうまそうな人は？

早

- 1位 山内 大樹 (教育4年)
2位 長谷川仁哉 (教育3年)
3位 菊池 雄大 (スポ科3年)



1位は「川越のネイマール」こと、山内大樹。ムキムキの肉体美はサッカーのユニフォームでさえ完璧に着こなしてしまう。部内有数の俊足でピッチを華麗に走り回る姿をありありと思い描くことができる。彼は黄金の右足を持つ…「右足しか」使わないことで有名。その体躯を活かしたゴリ押しの凄らしいプレーに熱狂するファンは多い。(※想像です)

続いて2位は「世田谷のメッシ」こと長谷川仁哉。海外サッカーが大好きなことで有名。バスケでも時折見せる相手をあざ笑うかのような彼のプレーはまさにファンタジスタである。そのテクニックで魅せる技を繰り出し、会場を沸かす。(※これも想像です)

3位は「亀有のケイスケ・ホンダ」こと、菊池雄大。本田圭佑並のビックマウスは世界に轟く。鍛えあげられた肉体(笑)から繰り出される酔拳のようなフリーキックは予測不能である。いざという時の勝負強さで彼の右に出るものはいない。(※想像でしかありません)

慶

- 1位 原 匠 (環境情報4年)
2位 寺部 勇佑 (環境情報2年)
3位 吉岡慶一郎 (商3年)



1位 本塾のリオネル・メッシこと原匠。彼は小柄ながら抜群の運動神経とクレバーなプレーで相手を翻弄する姿はまさにリオネル・メッシ。バスケの早慶戦で大活躍した後サッカーの早慶戦でも活躍が期待されるユーティリティープレイヤー。しかし、恋愛に関しては驚異的なスピードが仇となり幾度もオフサイドで失敗している。サッカーの早慶戦への出場も噂されている彼から目が離せない。

2位 本塾のリトル本田こと寺部勇佑。幼少期にラグビーで培ったスピードとフィジカルで、小柄ながらも本塾の未来を担う彼は、野心も強くスケールの大きい発言が目立つ。NBA入りを目指す彼はアメリカ時刻と日本時刻の時計を両腕に身につけている。彼は寝言で「New York is still midnight」と謎の発言をして、しばしば朝練に遅刻してしまう。

3位 は明るいムードメーカーの吉岡ランクイン。彼は持ち前のシュート力で練習後の1on1で疲労困憊の選手たちを圧倒し、連勝記録を積み上げている。おしゃれでダンスの腕も確かで歌も上手く非の打ち所がない。といった冗談はさておき、人一倍の愛護心から高等教育を人より長い4年間受けた彼はサッカーくらい上手くて当然であるというのが部員の総意である。

7. 地元愛が強い人は？

早

- 1位 中野 諭 (人間科4年)
2位 濱田 健太 (社学4年)
3位 森定 隼吾 (商4年)



「東京にはそまっとらんばい」——堂々1位は長崎出身、さだまさし、福山雅治、中野諭。東京にきて四年目にも関わらず、全くと言っていいほど標準語感を感じさせないその話し方。聞き取ることが難しいという意見も。そんな彼がオススメする長崎での過ごし方は？

「ハウステンボスでちゃんぽん食べて、カステラ食って、皿うどん食って、壱岐の水割り飲んだらおっけー。」

「まあ、通りもんば食べんね。」——

続く2位は博多からきたこの男。水炊き、明太子、濱田健太。九州勢の勢いが止まらない。濱田といえはその特徴的な博多弁。THE・九州男児な彼がオススメする福岡での過ごし方は？「もつ鍋食べて、ラーメン食って、太宰府天満宮で初詣。」

「じゃ。」——3位は岡山から来たこの男。白桃、マスクット、森定隼吾。部内唯一の岡山出身の彼は瀬戸内期待の星。そんな彼オススメの岡山の過ごし方は？「きびだんご食べて、きじ犬連れて。」いや、岡山他にもっとすることあるやろ…。

慶

- 1位 津野地宥樹 (政治2年)
2位 小祝 良介 (経済3年)
3位 鈴木 慧 (法律3年)

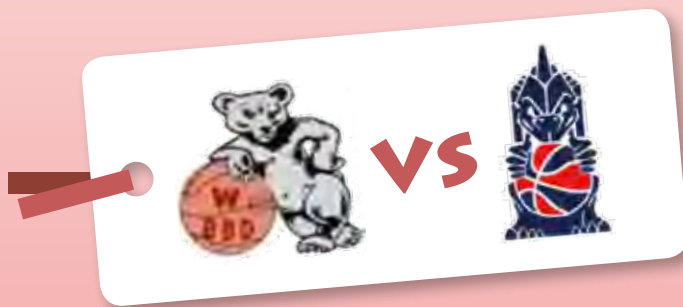


1位 埼玉県産ゴリラこと津野地。秩父の大自然で生まれ育った彼は、野生で培ったその圧倒的なフィジカルを武器にどんな相手も粉砕する。また地元をこよなく愛することで知られ、練習が休みの日は埼玉秩父の大自然に帰省している。最近彼を見に秩父を訪れる人が増えたことは有名な話で、訪れた観光客は口を揃えて「あの日見たゴリラの名前を僕たちはまだ知らない」と言う。

2位 タイからやってきた本塾の助っ人留学生小祝良介こと พม อายาก ได้ ย そんな彼は学生トレーナーとして日々選手たちのメンテナンスを欠かさず、練習後のタイ式マッサージは選手たちも思わず声をあげてしまうほどの癒し効果がある。上級生になっても初心を忘れず下端のようにいじられ続ける彼についていけない後輩などいない。

3位 東京の高級住宅街世田谷で20年間育った、本塾のブルコサミンこと鈴木慧。人生を世田谷でしか過ごしたことのないそのセレブリティーさは、地元愛が強い人物と言えるだろう。幼少期から帝王学を学び、バスケットに励んできた彼はまさに理想の学生コーチそのもので、その気品に満ち溢れた身のこなしと限度額無制限のブラックカードの前に逆らう後輩は存在しない。彼がいれば体育会バスケット部が社交界に進出する日もそう遠くないだろう。

早慶 ランキング対決!



女子編

1. 結婚したい人は？

早

- 1位 内山 未悠 (社学3年)
2位 安藤友里恵 (スポ科3年)
3位 田中真美子 (スポ科4年)

女性なら誰もが憧れる結婚という二文字。この言葉に最もふさわしい女性1位に選ばれたのは内山未悠。このかわいらしい顔立ちに、英語ペラペラという才色兼備な彼女。そして優しさにあふれているといういい女っぷり。堂々の第1位!

2位は安藤友里恵。女バスを明るく盛り上げるムードメーカー。しっかり者で頑張り屋さんな一面もある彼女にきっとあなたも惚れこんでしまうこと間違いなし!

3位は誰もが認める女バスを代表する美女、田中真美子。美しすぎる容姿は皆さんご存知のこと。だが彼女の魅力はそれだけではない。運命の相手を探しているそのあなた、今がチャンスですよ。



慶

- 1位 豊村 沙恵 (商4年)
2位 足立 はな (法律2年)
3位 山崎 多絵 (政治3年)

結婚したい人ランキング1位に選ばれたのは、豊村沙恵。優しすぎるくらい優しい彼女は、間違いなく良いお嫁さんになるだろう。彼女は老若男女、全世界の全ての生き物に対して優しいので、旦那は嫉妬してしまうかもしれないが…。そして日々の生活に疲れた時には、彼女の天才的な天然っぷりが癒してくれるだろう。しかし、ウエイトを愛し磨き上げられた彼女の肉体を見てしまったら、結婚生活が恐怖に変わるに違いない。

第2位は、足立はな。女子校育ちのほんわかした雰囲気を持ち、一目見ただけでこのランクインの理由が分かるだろう。工事現場のライトを見て、「イルミネーション綺麗だね。」と言うなど独特の感性を持つ彼女と送る結婚生活は、普通のものとは一味違う楽しい毎日を過ごせるだろう。

第3位に選ばれたのは、山崎多絵。彼女を嫁にしたいという男性は、真冬でもタイトなしでスカートを履いている彼女の色気にきっとやられてしまったのだろう。もしそのせいで彼女が風邪をひいてしまったら、ぜひ看病してあげよう。しかし、毒舌な彼女から槍のような暴言を吐かれても耐えられる男性でないと彼女の旦那は務まらない。



2. 無人島に連れていきたい人は？

早

- 1位 中田 珠未 (スポ科3年)
2位 岩田千夏子 (社学3年)
3位 山田 奈央 (商4年)



見事1位を獲得したのは早稲田が誇るビッグベビー中田珠未。驚異の運動神経とスタイルを持ち合わせた最強の女。そのうえその高すぎるテンションどんな場所でも発揮できる才能の持ち主。ぜひ一度体感していただきたい。

2位はバスケ界の羽生結弦選手でおなじみの3年岩田千夏子。誰もが認めるセンスの良さで器用さが持ち味の彼女。リュックに入りそうなサイズ感とキュートな笑顔でどんなことでも難なくこなす彼女を無人島のお供にはいかがだろうか。

3位は4年山田奈央。ユーモアあふれる彼女だが、商学部のGPAモンスターという超エリート。無人島で生き抜く術を考えてくれること間違いなし。

慶

- 1位 森川 唯加 (経済4年)
2位 松浦 紗季 (文4年)
3位 白藤 優果 (理工2年)



無人島に連れて行きたい人第1位を飾ったのは、我らが主将、森川唯加。バスケで多彩な才能を魅せる彼女だが、サバイバルにおいてもその鋭い勘と母性本能で生き抜く術を共に見つけ出してくれるだろう。無人島でも得意な料理を振舞ってくれることは間違いなし。だが、合宿で桃やレモンを皮ごと頬張る彼女が放った言葉は、「だいたい何食べても死なないから大丈夫。」無人島で彼女が使う食材に注目である。繊細かつワイルドな創作料理に期待大。時には覚悟して食べなければならない料理もあるだろう。

第2位に選ばれたのは本塾の主務、松浦紗季だ。彼女の食欲は留まるところを知らない。練習後、部員揃ってご飯を食べに行く、スタッフとは思えぬ勢いで、運動をしてきたプレーヤーの誰よりも多くの量を平らげてしまう。そんな「食べること」へ強すぎる執念を持つ彼女と共に行けば、食料の限られた無人島でも、まだ誰も見つけたことのない貴重な食材にありつけるような気がしてならない。

第3位は現2年生にしてチーム最小の白藤優果。145cmで身長詐称を疑われているが、そんな彼女を連れて行く利点はなんといってもそのコストパフォーマンス。コンパクトサイズにまとまる彼女とであれば、視界を邪魔することなく、無人島の風景を楽しむことができ、また彼女が住処でとるスペースも他の者に比べて小さいだろう。それでいて、同期で1番の筋肉の持ち主である。小さくても頼りになるところを是非証明してほしい。

3. ベストコンビは？

早

- 1位 谷口 涼佳 (スポ科4年) & 中田 珠未 (スポ科3年)
2位 内山 未悠 (社学3年) & 岩田千夏子 (社学3年)
3位 船生 晴香 (スポ科2年) & 石井 香帆 (スポ科2年)

1位に選ばれたのは谷口涼佳 & 中田珠未の親子コンビ。まだまだ成長が止まらない高身長ベビー中田の活躍を陰で支えているトレーナーの谷口。パワフルな中田と穏やかな谷口の正反対の二人の異質な絡みが、チームを笑いの渦に引き込むのである。

2位は社会科学部を代表する3年生仲よしコンビの内山未悠 & 岩田千夏子。同じ学部でいつでも一緒にいる2人。誰もが認める仲の良さは、長い年月をかけて2人の友情が愛情に変わるかもしれない…。

3位はもはや家族との呼び声高い2年生コンビ船生晴香 & 石井香帆。スポーツ科学部で同じ寮に住み、大学生活のほとんどを共に過ごしている2人。そんな二人はコートの中でも外でも息ぴったり。未来の早稲田を背負う名コンビであるに違いない。



慶

- 1位 井ノ本 雅子 (商4年) & 松浦 紗季 (文4年)
2位 和田 かおる (理工4年) & 磯部 紗希 (文4年)
3位 重増 志保 (環境情報2年) & 須藤 史帆 (文2年)

ベストコンビ第1位に選ばれたのは、井ノ本雅子 & 松浦紗季コンビだ。この2人は仲が良いというより主従関係にある。その様子は、まるでSの飼い主が体育館で放ったボールを拾いに行くDMのわんこ。ワンワン鳴いているわんこを愛のムチで飼い主が育てている。そんなこんなでお互い必要不可欠な存在であるのだろう。

第2位は磯部紗希 & 和田かおるコンビだ。「私かおるっていうの。あなたの名前は？」これが二人の出会いだった。それから3年。身長157cmの二人がじゃれ合う姿は一見仲睦まじく、オフの日も自主練に汗を流す姿はチームメイトから慕われているように見える。しかし、時折り目撃される度が過ぎたいちゃつきあいに、周りの部員はただただ鳥肌全開。二人の間に愛が芽生えるのは、七夕である今日かもしれない。天の川は見えているだろうか。

第3位は重増志保 & 須藤史帆コンビだ。コート上で有名キャラを見つけたら、それはこのしほちゃんズのとちらかに違いない。それぞれワンピースのニコ・ロビン(命名梅木理沙)とNHKのニャンちゅう(命名梅木理沙)に瓜二つな彼女達は、そのインパクトある容姿とは裏腹にシャイであり、いつも知らぬ間にチームメイトの視界からフェードアウトしがち。その能力を活かしてプレーではディフェンスの裏を取り、日常生活ではいじられキャラとして存分に力を発揮してくれる。声をかければ2人して絶妙な半笑いであえてくれるだろう。



4. エプロンが似合う人は？



- 1位 田中真美子 (スポ科4年)
2位 大西 胡桃 (スポ科4年)
3位 谷口 涼佳 (スポ科4年)



1位に選ばれたのは田中真美子。この美しい顔立ちに、家庭的なオーラまでも持ち合わせているという女性なら誰もが憧れるような存在。そんな彼女だが、コートの中ではチームの大黒柱。早慶戦でも

彼女の力強いプレーで魅せてくれることだろう。

2位は料理上手で有名な大西胡桃。まさにエプロンが似合う女性の理想像である。かわいらしい容姿に加えて、抜群の運動神経を持つ彼女だが、料理まで得意というのだ。彼女の能力を少し分けていただきたい。

3位はまたまた4年生！女バスのお母さんの谷口涼佳。彼女のこの溢れんばかりの癒しのオーラにエプロンが似合いすぎている。そんな彼女だがトレーナーとしてとても頼りがいのあるかっこいい一面も持っている。彼女の魅力は計り知れない。



- 1位 山崎結香子 (文3年)
2位 頃末 沙樹 (理工3年)
3位 小福川莉奈 (法律2年)



エプロンが似合うランキング。お年頃のレディーならば、誰もが選ばれたいランキングの堂々の第1位は山崎結香子。通称本塾のステラおばさん。見た目が似てるのか、もはや本人なのか。最近の彼女の悩みは、本人以上にエプロンとクッキーが似合うこと。ハリセンボン春菜に負けず劣らず。さあお腹の空いている皆さん、ご一緒に「クッキーちょうだい!」。どこからか聞こえて来るはず、「ステラおばさんじゃねーよ」

第2位は頃末沙樹。理工学部に在籍しており、テスト期間中は、暇さえあれば勉強に励んでいる姿をよく見かける。そんな彼女は勤勉で頭脳派である反面、家庭的な一面が垣間見られる印象がある。先輩の家で料理を作ったり、ボランティアには手作りの本格的なお菓子を部員一人一人に振る舞っていた。彼女に胃袋を掴まれたそこのあなた、気をつけて。彼女の料理道具はスプイトとフラスコとメスシリンダー、隠し味には毒性強めのホルムアルデヒド、らしい。

第3位は小福川莉奈。一人暮らしの彼女は、自炊しては作りすぎた料理に追い込まれている。カレーを作ればカレー生活5日間。カレーを食べすぎて日に日に元気を失っていく。お腹をすかせて彼女の家を訪れば、喜んでカレーを差し出してくれるであろう。そんな料理上手な彼女の主食は、なんていったって皮をむくだけのバナナ。

5. 肉食系の人とは？



- 1位 山田 奈央 (商4年)
2位 中田 珠末 (スポ科3年)
3位 大西 胡桃 (スポ科4年)

今回圧倒的票を獲得し1位となったのは山田奈央！見ての通り王者の風格が漂っている。圧倒的存在感で世の中を食い荒らすのは女バスの逸材山田奈央なのである。

2位は中田珠末。愛らしい笑顔と抜群のスタイルを持つ彼女。老若男女問わずだれにでもフレンドリーで積極的な彼女。納得のランクイン。

3位は大西胡桃。見ての通り小動物のようなかわいさに、恐ろしいほどのコミュカという武器を持つまさにモテの極道をゆく彼女。このかわいらしい見た目からは想像できない肉食系一面を持っているらしい。好きな子にアタックできないあなたの悩みをかなえてくれるかも！？



- 1位 高瀬 華琳 (経済4年)
2位 和田かおる (理工4年)
3位 梅木 理沙 (経済3年)

肉食系ランキングで圧倒的勝利を収めたのが、高瀬華琳だ。ゴール下で数々の激しい戦いを乗り越え鍛え上げられたフィジカルの印象が強い彼女だが、コート外で鍛え上げられたコミュニケーション能力は、まさに肉食系。彼女の辞書に社交辞令なんて言葉は存在しない。相手が誰であろうと果敢にコミュニケーションをとる姿は百獣の王。しかし、最近の彼女は肉食系どころかある人しか眼中にないらしい、つまらない。

第2位はちょっと違った肉食系、和田かおる。狙った獲物は逃がさない、ではなく狙った食物は逃がさない。しかし誰よりも努力を惜しまない彼女の食べる姿は嫌味がなく清々しく、好印象。どこかで見た気がする、そう、吸引力の変わらない、ただ一つの掃除機、WADAISON。これを読んでいるあなた、目を離さないで、食べ物が無くなってしまおうから。

第3位は梅木理沙。本人いわく「お肉より魚派だから肉食系じゃないよーん」らしい。流石は幼稚園クオリティ。予定の数はチーム1、フットワークが軽いのか、気持ち軽いのか。オフの日であっても、少しの休息も許さない彼女のストイックさは、尊敬にも値する。



6. サッカーが上手そうな人は？

早

- 1位 高田 静 (スポ科4年)
2位 安藤友里恵 (スポ科3年)
3位 岩田千夏子 (社学3年)

1位に輝いたのは、我らが主将高田静。早稲田の絶対的ポイントガード。いつも華麗なドリブルとパスさばきで観客を魅了している。“神”と称される彼女だが、バスケットだけでなく、サッカーにおいても神と呼ばれし女なのかもしれない。

2位は3年安藤友里恵。鍛え抜かれた肉体とパワフルな根性でバスケット界ではなく、サッカー界でも輝く日は遠くないかもしれない。彼女のスマイルで会場を沸かせることだろう。

3位は実はサッカーをしようかとも思っていたという3年岩田千夏子。運動神経の良さとセンスの良さはもちろんのこと、



ショートカットにヘアバンドのスタイルはなでしこジャパンにいてもおかしくない。次のワールドカップにご期待ください。

慶

- 1位 阿部真璃奈 (経済4年)
2位 梅木 理沙 (経済3年)
3位 梅田 香 (環境情報2年)

本日の午後は、サッカーの早慶戦。そこでこのランキングにも注目したい。第1位に輝いたのは我がチームのトレーナー阿部真璃奈だ。可愛い容姿を持ち、一見サッカーとは程遠くも感じられる彼女だが、そんな素敵な印象も膝上まで。現在、トレーナーとしてチームを外から支える存在であるにもかかわらず、彼女の膝下は立派で逞しい。彼女なら、すね当てなしでも活躍できること間違いない。サッカー早慶戦も乞うご期待。



続いて2位を飾ったのは女バスのオシャレ番長、梅木理沙。彼女のトレードマークとも言えるのが、練習の度にしっかりとコーディネートが考えられたカラフルなヘアバンドだ。そのイメージが、彼女とあのなでしこジャパンを結びつけたのではないだろうか…。

そして3位は、ニューヨーク学院出身の梅田香だ。成長期の4年間をアメリカで過ごした彼女は、身長174cmと女バスの身長を誇るほどにたっぴりとアメリカンサイズ(?)に成長した。そんな彼女が持つ余す長い脚は、自在にサッカーボールを操るに違いない。

7. 地元愛がある人は？

早

- 1位 長谷川玲子 (社学4年)
2位 中村 美羽 (社学3年)
3位 船生 晴香 (スポ科3年)

1位に輝いたのは愛にあふれた長谷川玲子。福井県でのびのびと幼少期を過ごした天使長谷川の地元愛の大きさに日々驚かされている。福井を代表する彼女の華麗なシュートをご覧あれ！

2位は浦安が誇る美白すぎる才色兼備といえばこの人。中村美羽である。彼女こそまさに浦安を愛し浦安に愛された女。ディズニーランドで成人式を迎え、スピーチまでこなした秀才でもある中村。これからも彼女はディズニーランドと一緒に大きく成長していくに違いない。

3位は双子の姉と顔が全く一緒の船生晴香。暇さえあれば地元を思う地元愛が強すぎる彼女。家族愛が強い彼女だが、双子のかたわれを思い、毎日枕をぬらしているというわさも!? そろそろ東京に慣れてきてほしいものだ。そんな愛にあふれた彼女の成長を温かく見守っていただきたい。



慶

- 1位 井ノ本雅子 (商4年)
2位 頃末 沙樹 (理工3年)
3位 和田かおる (理工4年)

地元への愛が止まない3人を紹介しよう。1位は大坂出身の井ノ本雅子。関西弁の彼女が繰り広げる日々のトークショーを楽しみに部員は体育館を訪れる。彼女の大阪仕込みのトークはそこの芸人よりはるかに面白い。笑いの聖地と呼ばれる大阪出身の名に恥じないどころか、大阪の宝とも言えるほどの面白さ。帰省した際、独り暮らしの家の鍵を実家に忘れてしまったことがあるそう。大阪が好きすぎて日吉に帰りたくなかったのだろうか。いや、大阪が宝である彼女を、東京に帰して欲しかったのだと私は思う。彼女が大阪を愛しているのではなく、大阪が彼女を愛しているのかもしれない。吉本新喜劇に引き抜かれな



いかチームとしては不安である。2位は神奈川県鶴沼海岸出身の頃末沙樹。彼女の夏の服装は、いつも決まってTシャツにジーンズと、あまりお洒落を気にしない。しかし、鶴沼海岸で遊ぶ時だけは、Tシャツにショートパンツとお洒落に少しだけだが気合いが入る。都会で遊ぶより地元の海岸で遊ぶ方が、テンションが上がるらしい。なぜだろう。まさか海岸で行われているビーチバレーのせいではないだろうか。彼女はエプロンが似合うランニングに入るほど、おしとやかで終始落ち着いているが、本当は小さい頃からずっと見続けてきた、真夏に黒魚けになって砂浜でビーチバレーをするパーティーピーポー系女子に憧れを抱いているのかもしれない。

3位は千葉県出身の和田かおる。千葉の名産と言えは落花生。みなさん落花生の素晴らしい効果をご存じだろうか。食欲増進効果である。彼女の食事の量は、チームの誰も計り知れない。同期が食べる倍の量のパスタを半分の時間で食べることができる。小さい頃から地元の落花生を食べ続け、無限の胃袋を手に入れたのだろう。地産地消。これぞ地元愛だ。

主将
鳥羽 陽介

慶大



早

主将



——伝統ある大学の主将に選ばれたことをどのように感じていますか？

鳥羽 歴史ある慶應義塾体育会バスケ部の主将に選ばれたことはうれしく思う反面、背負うものも大きいので、しっかり役割を果たしていきたいとも思います。

濱田 僕も伝統ある早稲田大学の主将として、選んでもらったことは光栄に思いますし、1年間の成績の責任を担うということで、この1年間をより良いものにしていこうと思っている次第です。

——新体制が発足してしばらく経ちましたが、ここまでのチームの雰囲気はどうか？

鳥羽 今はケガ人も多くて、なかなか万全な状態とは言えないですけど、練習の雰囲気はみんなすごく前向きに取り組んでくれていて、やっぱり春の最大の目標は早慶戦で勝つことなので、順調に進んでいるんじゃないかと思いません。

濱田 今年は1年生から4年生まで全員が意見を発信して、全員の意識が一体となったチームにしていこうというスローガンを最初に掲げたので、ここまでは順調にまともっていけているかなと思います。



——六大学戦で一度対戦しましたが、お互いのチームの印象は？

鳥羽 早稲田はサイズがあつてなおかつ、ガードはスピードがある。すごくバランスの良いチームだなと思っています。

濱田 慶應はとにかく早い動きから、ペリメーターの正確性が高く、少しでもチェックにいかなければ決められてしまうという印象を受けたので、ハードにディフェンスしなければ負けてしまうなと思いました。

——鳥羽選手が福大大濠高、濱田選手が福岡第一高と同地区の高校でしたが、お二人の面識は？

鳥羽 小学校の全国大会から、ずっと戦っていて、中学校も全国大会で戦って、高校も大濠と第一はライバル関係でしたね。

——昔からのライバルといった関係ですか？

鳥羽 腐れ縁というか(笑)

濱田 中学校まではあまり意識してなかったんですけど(笑)

——昨年の早慶戦を振り返って

鳥羽 37勝37敗というタイだったところで、うちが一つ勝ち越したかったところなんですけど、終盤の大事な場面で早稲田は絶対に得点してきたのに対し、うちは点を取り切れなかったのが、今年は絶対自分たちがやっていかなきゃいけない部分だなと思いました。

濱田 自分が入学してから毎年競った試合展開で、去年も競った試合でした。一昨年とその前は、慶應の気持ちの強さに対し、早稲田の気持ちの弱さが出て、負けてしまったと思うので、そこだけは負けないように、一試合通して強い気持ちで戦った結果、去年は勝つことができたのだと思います。

——早稲田が38勝、慶應が37勝という戦績についてはどのように感じていますか？

鳥羽 もちろん今年勝ってタイに戻して、来年後輩に勝ってもらいたいという思いで今年絶対勝ちに行きます。

濱田 伝統は感じながら、今年のチームで慶應に絶対勝つという思いで、準備を進めています。

——お二人が入部してからの戦績で言えば、慶應が2勝、早稲田が1勝ですね？

濱田 やっぱり、負け越しで大学生活を終わりにたくないという気持ちがあるので、絶対勝ちたいですね。

鳥羽 最上級生として勝つということは主将としての役割だと思うので、しっかり果たしていきたいと思います。

——早慶戦でのキーマンは誰だと考えていますか

濱田 誰って言うのは難しいのですが、3年間早慶戦を経験してきた4年生の気持ちの強さはチームに波及していくので、4年生全員がいかにも泥臭く粘り強く早稲田らしく頑張れるかということが鍵になると思います。

鳥羽 同じですね。4年生がどれだけ強い気持ちを持てるかが鍵になるのではないかと思います。

——相手チームで警戒する選手は？

濱田 気持ちがすごく強く勝敗に影響する中で、エースで主将である鳥羽君をのせるとチームが一気に勢いづいてしまうので、特に鳥羽君に仕事させないことが鍵になると思います。

鳥羽 僕は、濱田、長谷川、富田の4年生3人を挙げますね。3人は経験も豊富で、試合に出る4年生としてコートでチームを引っ張ると思うので、彼らをどれだけ機能させないかというのが勝敗を分けると思います。

——今年は、代々木ではなく大田区で行われることについてどのように考えていますか

鳥羽 プラスに考えれば代々木より人が入るので、集客を頑張ってさらに盛り上がる早慶戦になればいいかなと思



います。代々木でやりたかったなという気持ちは少しあるのですが、会場は特に関係なく、早慶戦という独特の雰囲気があると思うので、盛り上げていきたいです。

濱田 3年間代々木で開催されていたので、早慶戦といえば代々木というイメージはありますが、会場が変わったことで独特の雰囲気がどう変化するか分からないので、今までの経験が通じなくなるかもしれないですね。そこはしっかり試合に入れるように、雰囲気に飲まれないようにしていきたいなと思います。

——早慶戦への意気込みは？

鳥羽 勝敗をタイに戻すというのもありますし、自分としても最後の早慶戦ということで、勝ちを取りに行きたいと思います。

濱田 この早慶戦に勝つか負けるかっていうのは、今後のシーズンにも大きな影響があるし、勝つことが前期の目標でもあるので、絶対に勝ってこの一年間に弾みをつけたいと思います。



主将 森川 唯加
副将 磯部 健太

慶

×

早

主将 高田 静
副将 大西 胡桃



——昨シーズンを振り返っていかがでしたか？

高田 最初のトーナメントで優勝できたのですが、リーグでは2位に終わってインカレでも順位を落としてしまったので、大事なところで勝ち切れなかったのがチームの課題だなと思いました。

大西 春のトーナメントよりも終盤の方の印象が強いです。シーズン最後のインカレで勝てなかったのが残念でしたが、4年生のリーダーシップや声掛けがとても力になっていました。すごく良いチームだったと思います。

森川 前半は上手くいっていましたが、リーグ戦が始まる時に主将だった先輩が怪我をして、そこからチームの調子が崩れてしまって本来の力が発揮できなかったです。

磯部 リーグ戦では勝ち切れない試合がずっと続いて3部から落ちてしまったので、今年は1試合1試合を大切に戦って勝っていききたいなと思います。

——昨シーズンお互いのチームにどんな印象を感じましたか？

高田 早慶戦と六大学リーグの2回しか対戦する機会はありませんでしたが、とにかく相手に一生懸命向かってくるチームというイメージですね。

大西 六大学のときは試合開始からすごく勢いを感じるプレーをしてきたので、自分たちも同じような気持ちをもって戦わないといけないと感じさせられました。

森川 あらゆるプレーが上手いので、毎年さすがだなと思っています。

磯部 ドリブルやシュートなど一つ一つのプレーが本当に上手で、早稲田との試合はそういうところを勉強して盗むチャンスだなと思っていました。

——新チーム発足から今まで振り返っていかがですか？

高田 早稲田は今年ヘッドコーチが不在で、毎日指導してくれる人がいない状況なので、今までよりも学生主体に

なって自分たちで考えてプレーすることが多くなりました。まだ始まったばかりなので、完全に手探り状態です(笑)。

大西 ヘッドコーチがいないからこそ、皆がお互いに指摘し合えるチーム作りを目指しています。上手くいっているかはまだわからないですけど、今年こそは結果を残せる年にしたいですね。

森川 慶應もコーチがなかなか練習に来られない中で、チームメイト同士の繋がりを強くして自分たちの力でやっという意識しているのですが、なかなか難しくして試行錯誤しています。

——主将・副将に就任した感想はいかがですか？

高田 私はガードのポジションでプレーしていて、普段の試合でも指示を出してチームを引っ張っていこうという意識は昨年からあったので、主将になることは特に重荷とは感じなかったです。プレーの面ではしっかりと周りをリードしていける自信はあるので、今後はプレー以外の部分でもチームメイトに気を配るといったところも頑張っていきたいです。

大西 決める時も副将は正直誰がやってもいいかなって感じでした。なので、特に副将だから何かをやるという訳ではなく、4年生全員で主将を支えていければいいかなと思います。

森川 性格的にそんなに向いているほうではないと思うので…(笑)。大変ですけど、チームメイト、特に同級生には本当に助けられています。

磯部 私は昨年そんなに試合に出てはいなかったのですが、それでも副将になったということは、控えの立場を経験したことが買われたのかなと思います。それを活かして、主将がチームを引っ張っていくのをフォローしていくのが自分の役目かなと思っています。

——昨年とチームの雰囲気に変化はありますか？

高田 今まで通り選手同士で声を出し合っていてやっていますね。変わったところはそんなに… (笑)。

大西 みんな明るく元気な雰囲気です (笑)。

高田 でも今年は昨年以上に基礎的なことを練習していて、プレーの姿勢やチームルールに対する意識は昨年以上に高まっているように感じます。

磯部 慶應も今年は基本的なことを特に意識して練習しています。他にも学年を交えたグループを作って後輩と話す機会を増やして、学年の壁を無くそうと頑張っているところですよ。

森川 細かいことや気になることを溜め込まずに言い合うようにしています。最近は互いに本音で話せることも多くなったかなと思いますね。

——オフの日はチームメイトと過ごしたりはしますか？

大西 オフの前日にみんなで遊ぶことが多いよね？日曜の練習の後に温泉行ったり焼肉行ったり。

高田 オフの日は部活以外の友達と遊ぶことが多いです。あとはチームメイトともたまにドライブとかディズニーとかに行ったりもしますね。

大西 でもたまに4年生主催で全学年集まる会もあって、川に行ってバーベキューしました。まあ年に1回ですけど (笑)。

森川 オフはあんまり外に出ないので (笑)。遊ぶときは大体チームメイトとですね。

磯部 早稲田みたいに全員で遊びに行ったりしてみたいですけど、後輩たちが忙しいみたいで……。私は同期の4人が仲良しなので、みんなで練習後にパンケーキとか食べに行ったりします。

——昨年の早慶戦を振り返っていかがでしたか？

高田 早慶戦は普段とは違って毎年いろいろな人が見に来てくれる試合なので、その雰囲気を楽しみながらも、試合では自分たちのやるべきことをしっかりと出来たと思います。

大西 代々木で早慶が並んでお互いの校歌を聴いていると、自分は早稲田に入ったんだなと実感します。早稲田も慶應も両方が意地をぶつけ合う雰囲気がすごく好きで、昨年もお互いに全力が出せた早慶戦だった気がします。

森川 100点以下に抑えるという目標は達成できませんでしたが、OBの方などからは「今までで一番良かった」と言ってもらえたので、その意味ではよかったかなと思います。

磯部 代々木という特別な場所で、早稲田も慶應もたくさんの方が応援に来て、大観衆の前で伝統の試合ができるというのがとてもありがたいと感じました。

——今年の早慶戦で改善したい点がありますか？

大西 昨年は4年生が何人が怪我で出られなかった覚えがあるので、みんながコートに立って楽しめる試合になればいいなと思っています。

磯部 一つでもいいので、何か「これだけは早稲田に通用した」というものが見つけられるといいなと思います。

——大観衆の前では緊張しますか？

大西 (高田の方を見て) しないでしょ？

高田 周りからは「緊張してないでしょ！」って言われますけど、自分ではしているつもりです (笑)。

大西 私も緊張はしますが、それよりも楽しい気持ちの方が大きいです。気分が明るくなるタイプですね。

森川 普段あんなに大勢の観客の前で試合をすることがないので、毎回すごく緊張しています。

磯部 私もすごく緊張するタイプです。なので、自分より緊張している人を見つけて落ち着くようにしていますね。

高田 緊張するときは、「緊張する」って口に出して周りとしゃべっていると、気も紛れてリラックスできる気がします。

森川 私は試合が始まってしまえば案外大丈夫ですね。

——最後に早慶戦への意気込みをお願いします。

高田 今回は日程がサッカー早慶戦と被っていて、場所も代々木ではないので、観客の面はどうなるのかと思うこともあります。お客さんに来てよかったと思ってもらえるように、良いプレーをしたいです。自分にとっては最後の早慶戦なので、あの独特の雰囲気、盛り上がりを楽しめたいなと思います。

大西 お互いの誇りをしっかりと持って、自分たちも楽しみながら観客も楽しませられる試合にしたいです。

森川 たとえ点差は離れても、最後まで諦めない姿勢を見せられたらいいなと思っています。

磯部 自分もやり切りたいし、出ている選手全員にやり切ってほしいです。最後までずっと応援してもらえよう試合にできたらいいなと思います。



小原
吉敷
澤近陸
秀太
智也

慶大



早大

長谷川
富田
岡野暢
頼
佑紀

——六大学リーグで新チームでの初対戦（67-62で早稲田が勝利）となりましたがいかがでしたか？

富田 慶應は昨年のインサイドの4年生が抜けてサイズは小さくなったけれど、その分ペリメーターでのシュートや動きの精度が高くて、やりにくい部分がありました。

岡野 お互い主力選手が結構いない中での試合だったのですが、それでも慶應のハードワークは健在で、ひたむきにプレスをかけてくる選手が多かったので、そこはとても厄介で気をつけないといけなかったです。

小原 早稲田は本当によく走るチームだなというのが第一印象でした。サイズの大きい選手も多くて外からのシュートも入るので、本当に守りづらかったです。

吉敷 自分たちと比べても全員大きくて、その上で全員シュートもドライブもできるオールラウンドなチームだなという印象がありました。あとは単純に強かったです。

——2月～3月、Bリーグの青森ワッツでプレーした長谷川選手ですが、どういった経験になりましたか？

長谷川 外国人選手と一緒にプレーしたことや、逆に相手に2人も外国人選手がいる中でプレーできたことはとても自信になりました。いろいろと試行錯誤する中で、今までにはなかった余裕や視野の持ち方が身についたと思うので、それは早稲田でプレーする上でもプラスになるはずだし、プロでプレーできてよかったです。

——この春に練習で重視したことは何ですか？

澤近 昨年と比べてサイズがない分、まずは全員でリバウンドを取りきることでですね。そこから速攻は出せなくても、セットオフェンスでスクリーンを使ってズレを作ってから1対1を仕掛けようって感じです。そこからディフェンスが来たらパスを出して、ノーマークでシュートを打つ形を目指してやってきました。

長谷川 昨年まではピック&ロールが多かったですけど、今年は1対1を多めにやろうと考えています。なので、攻撃でも守備でも1人1人の責任が大きくなるなというのは練習でも感じています。ただ大きい選手も小さい選手も全員がリングにアタックする、3ポイントを打つ、早稲田らしくディフェンスをする、走るというのは変わらずやっていきたいです。

——新体制で変わったことはありますか？

岡野 新入生で入ってきた2人が結構試合に出ることが多くて、ガンガンやってくれる雰囲気があります。それは今までになかった感じなので、新しい風が吹いていますね。

長谷川 上手くまとめるなあ（笑）。

吉敷 うちはサイズが小さくなって戦術が大きく変わったので、まずはコミュニケーションを取っていかないと始まらないと思って、練習中もとにかく喋ることを意識しています。上手くいかなくてコーチ陣に怒られることも結構ありますけど。

——お互いのチームにはどんな印象を抱いていますか？

富田 慶應は早稲田と戦うときはちょっと目の色が変わるっていうイメージが強くて…。

一同（笑）

富田 自分たちの嫌なところを突いてくるプレーをやってくるので、自分たちも負けてられないですね。良い意味でバチバチやりあえていると思います。

澤近 早稲田は前から激しいディフェンスをしてきているのが一貫していますね。そういうイメージです。はい。

吉敷 短けえ（笑）。

——早慶の選手間で交流はありますか？

一同 ないですよ～。

澤近 でもこの前、就活で濱田健太君に会いました。

一同（笑）

小原 あとは何となく埼玉県出身が多いイメージが。

長谷川 ここ（長谷川・小原）は中学で試合したことがあって。

小原 ポコポコにされた経験しかないですけど（笑）。

吉敷 （長谷川と）俺も試合してるから！忘れないで（笑）。



富田 原（匠）とは大阪のジュニアオールスターと一緒にしたね。

岡野 鳥羽とはここ（岡野・長谷川）と濱田と4人で高校の時に一緒に代表チームでプレーしたこともあるね。

——オフの日もチームメイトと過ごすことはありますか？

吉敷 最近は就活が忙しいのであんまり……。でも基本的には同期で予定合わせて遊びに行くとか……。だよな？

小原 まあ……。でもあんまりくない？就活が忙しいってことにしようぜ。

一同（笑）

小原 ほんとは仲いいです。

岡野 僕らは同期5人が寮に入っているんで、その寮生で遊びに行ったり、5人で一緒に就活やったりしています。うちは仲良くやっています（笑）。

——昨年の早慶戦を振り返っていかがでしたか？

長谷川 今までの試合の中でも特に印象に残っています。1・2年の時は自分も試合に出られなくてチームも負けてしまったので非常に悔しかったです。3回目の昨季も前半は慶應のペースに飲まれていたけれど、最後に勝ち切れたっていうのは早稲田にとっても大きかったし、早慶戦勝利は目標の一つだったので嬉しかったです。

富田 ただただ勝ててよかったです。

澤近 前半は慶應のペースで、これはいけるなって思ったんですけど、後半に早稲田がリードしてからはズルズルいってしまってギアを上げることもできなかったです。不完全燃焼でした。

吉敷 前半は良かったけど、後半に長谷川君が鬼のように襲い掛かってきたので……。

一同（笑）

吉敷 その気持ちに圧倒されて流れを持っていかれたのが全てだったかなと思うので、今年は40分間気持ちのこもった戦いができればと思います。

——今年の早慶戦の勝敗を分けるポイントは何だと思えますか？

長谷川 早稲田は慶應よりもサイズがあるのでそこを突いていくのは勿論ですが、早慶戦は気持ちの部分が大変で、一瞬でも引いてしまうと一気に流れを持っていかれると思

います。技術やプレーではなく勝ちたい気持ちが強い方が勝つと思うので、僕たちは全力で向かっていだけですね。

吉敷 僕も気持ちの面は大事だと思っていて、それが表れるのはリバウンドやルーズボールなので、そこはプライドを持ってこだわっていきたいです。会場の雰囲気も凄いいし、一度流れを失ったら簡単には取り戻せないなので、気持ちの部分は常に意識してやっていきたいです。

——自チームのキーマンとなる選手は誰ですか？

澤近 慶應は、山崎純です。

吉敷 他人任せかよ。

一同（笑）

吉敷 あとは高田淳貴の新3年生二人が、もともと技術的にもチームトップクラスだし、上級生になって言動も重みが出てきたし、チームに不可欠な存在に成長してくれたと思います。

岡野 誰だろうね、キーマン。

富田 長谷川とか。

長谷川 いやいや、僕じゃないです（笑）。

富田 4年生全員とかは？

吉敷 あ、逃げたな。

一同（笑）

富田 じゃあ、はまけん（濱田健太）で。

岡野 もう、はまけんがいいよ。

長谷川 あいつのキャプテンシーに期待します（笑）。

——最後に早慶戦への意気込みをお願いします

長谷川 昨年の勝利が、余計に今年も勝ちたいという気持ち強くしてくれました。最後の早慶戦で絶対に連覇を成し遂げたいので、全力で慶應に向かっていく、それだけです。

岡野 昨年初めて試合に出て、楽しかったっていうのが第一の感想なので、今年も楽しむことを第一に考えながら、自分の役割を愚直に体現していきたいです。

富田 自分たちの代で勝ちたいという思いが強いんです。あとは個人的には昨年は満足のいくプレーができなかったので、今年はお出だしから頑張っていきたいと思います。

澤近 春の目標が早慶戦の優勝で、しかも自分たちの代なので、絶対に勝ちたいという強い気持ちで下級生を引っ張っていきたいです。

吉敷 高校から7年間早慶戦を見てきて、出場するのは最初で最後だと思うので、自分にできることを全力でやってチームの勝利に貢献したいと思います。

小原 勝ちたい気持ちが強い方が勝つ試合なので、上級生として強い気持ちを持ちつつ、自分たちにできることを体現していきたいです。



上級生として

チームの舵を取り、帆を広げ推進力を作り出していたのは4年生の力だけではない。3年生も昨シーズンまでチームの下級生として上級生を支え続け、1年生をバスケ部にふさわしい人材として厳しく育て上げた、チームの潤滑油且つ接着剤としての責務を全うした。そんなタレント揃いの3年生を紹介していきたいと思う。

まずは、昨季からの本塾のハイライトを総なめにしてきた本塾のスーパースター、山崎 純(No.9)だ。全中、高校時代の国体優勝経験、正念場でのクラッチシュート、絶妙なアシスト、目にも止まらぬドライブ、彼のスター要素は止めどなく溢れ出てくる。最近では公式戦での活躍により自らスーパースターを豪語した。一層進化を遂げた彼の超絶プレーを見るのはこの早慶戦の1つのメインイベントでもある。

2人目は、鳴門の渦潮から産まれたクルスコアラ、高田 淳貴(No.10)だ。高打点から顔色一つ変えず放つ彼のスリーポイントは、無情に相手のリングを貫き、年々増加する隠れ女性ファンの心をも貫く。さらに強靱なフィジカルでコート上を蹂躞する彼はまさにアンストツッパブル。今大会で彼に会場の女性ファンをすてかっさらわれる早稲田は

9 山崎 純 3年



10 高田 淳貴 3年



肉体的・精神的に深い傷を負わされるだろう。

最後に、「一貫校魂を胸に、チームの胸に塾生たれし」を体現する2人の一貫校コンビを紹介しよう。

1人目は塾高出身、その長い手足を武器に全てのポジションを網羅してきたオールラウンダー、工藤翔平(No.12)だ。彼の奇想天外な発想力から生まれるムーブは相手の意表を突き、我々も普段から調子を狂わされる。今年はフィジカルにも磨きがかかり、もはや彼の暴走を止めることは敵味方ともに困難を極める。

2人目は志木高出身、鋭い観察眼と強烈なストイックさを持ち合わせる沸騰ファイター、泉 友樹雄(No.13)だ。長らく怪我に悩まされ復帰するまでプレーを我慢し続けた彼

1年を終えて

は必ずや限界まで煮えたぎった熱量を彼のシグニチャームーブである稲妻の如きドライブに込め、存分にぶつけてくれることだろう。

大学入学から早1年が経った2年生。彼らは7割が内部生で占められている分、一番慶らしい代名ではないだろうか。1年の下積みや部の仕事でスキルもメンタルも一躍進化を遂げた彼らを紹介しよう。

まずは、昨年1年生ながらリーグ戦で大いに貢献した本塾のフクラハギオバケ、甲谷 勇平(No.14)だ。その大根並みの足で速攻の先頭を走り、どんなファールをされても点を決めきるお祭り男である。上京から1年全く関西弁を直そうとしない頑

固な精神で彼自身初の早慶戦優勝を目指す。

2人目は、B(リーガー)の意志を継ぐ男、寺部 勇佑(No.15)だ。低身長ながらその頭脳でコート上を支配し、持ち前の脚力で粘り強いディフェンスを見せる、本塾の小型爆弾だ。日々鍛え続ける胸筋は彼曰く注目ポイントらしいのでチェックしてあげて欲しい。

今急成長を遂げている本塾のダンカ、岩片 悠馬(No.19)は、高身長を活かした懸命なリバウンドや練習後にひたすら叩き込むダンクが印象的な豪快なプレーヤーだ。しかし趣味はパッシュ集めと折り紙という高貴な一面を持ち、彼の佳作である不死鳥の出来栄はまさに折り紙付きである。

最後に、一貫校で磨かれたプレーで体育会の門を叩いた3人を紹介しよう。

1人目は、志木高で5本の指に入ったほどの頭脳を持つ、本塾のインテリゴリラこと津野地 有樹(No.16)だ。パワフルで粗削りなポストプレーは相手を粉碎し、ジャンパーの高いアーチは見る者を魅了する。さらに私生活ではその陽気なキヤラクターで同期のイベントを主催するパーティーオーガナイザーの役を自ら担っている。

2人目は、本塾の現役時代にスマッシュブラザーと恐れられた伝説の兄を持つ、藤井 陽石(No.17)だ。

バスケ部最長の座高が故の重心の低さと巧みなドリブルスキルで独特のリズムを刻み、得意のスリーポイントでとどめを刺す。双子の兄と瓜二つで、間違えると厄介なので気を付ける必要がある。

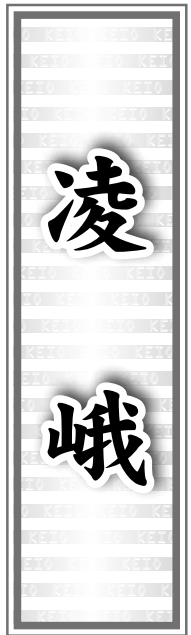
3人目は、類まれなバスケセンスと長い手足から繰り出すトリッキーなプレーで相手を翻弄する本塾のファンタジスタ、山本 純平(No.18)だ。脳内もファンタジスタなために常人にはなかなか理解のできない豊かな感性と、ハーフコートショットを高確率で沈める程の抜群の距離感覚を持つ。

少数精鋭

今年の新入部員は例年に比べ少ないが、この3人は内部生の持つ強心臓で自ら厳しい環境に身を置くことを決意した、筋金入りの三銃士である。そんな選手の彼らを紹介しよう。

1人目は、歴代志木高PGたちのDNAを継ぐ、人見 快(No.20)だ。天性のバスケットスキルで上級生に食うて掛かり、私生活でもその愛くるしさで上級生の懐に食って掛かる逸材だ。

2人目は、中等部出身期待のオールラウンダー、小澤 力哉(No.21)だ。日常では礼儀正しく気が利く好青年だが、コートでは一変、先輩であるうと楯を飛ばす鬼ガードへと変貌する。



無念の2部降格を許してしまつた2016年。新たなスローガンに「覚悟」を掲げ、心機一転チーム一丸となつてスタートした2017年。目標を通算成績勝ち越しとした春の早慶戦、そして関東1部リーグ復帰と意気込んだが、早稲田の1部チームとしての貫禄に圧倒され、惨敗という結果で幕を閉じた。また、秋のリーグ戦においても、多くの怪我人を抱える中奮闘したものの、中々思うように結果を残せず、2部リーグ7位という結果に終わり、悲願の1部復帰を果たすことができなかった。

そんな中スタートした2018年。何と言つても我々にはこの早慶戦で早稲田から優勝杯を奪還し、通算成績をイブンに戻したいという目標がある。そのために、今年のスローガンである「凌峨」のもと、昨年の悔しさを胸に何度も本音でぶつかり合い、日々最高の自分を追い求め、どんなに辛い状況でも決して手を抜かず、目標に向けてひたむきに努力し続けた。

いつき続け、必ず下馬評を覆す。その勝利への執念をぶつけて必死に食らいつく姿に観客はきつと心を動かされることだろう。今年の代には早稲田を圧倒するビッグマンやスター選手は数少ない。しかし、我々は本塾のスタイルである「堅守速攻」を胸に本塾らしい泥臭いバスケットを体現できれば必ず勝利を掴むことができる」と信じている。

チームの推進力

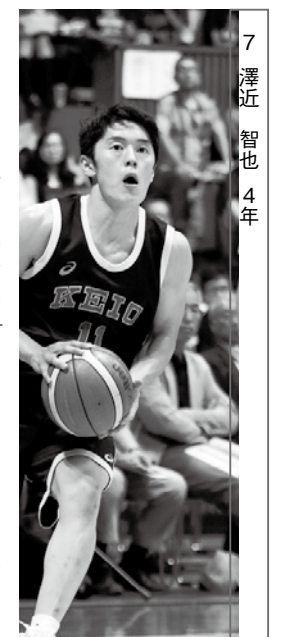
絶対に負けられない戦いである早慶戦。その勝負の鍵を握るのは他でもない4年生である。全員が努力のスペシャリストであり常に前を向き続ける、個性的ながら同期愛の強いそんな彼らを紹介しよう。

最初に、今年度の本塾を代表する主将、副将の紹介だ。

まずは本塾の天駆ける獅子、キャプテンの鳥羽 陽介（No.4）だ。彼は強いリーダーシップと1年次から務め続けた豊富なスタメン経験を

以つてチームを牽引し続け、幾度となくチームを危機から救つてきた、まさに最強の男である。高校時代からの彼の代名詞である鉄壁のディフェンスや電光石火のドライブ、高いバスケットから繰り出されるトリッキーなパスはチームを勝利に導く鍵となるに違いない。

副将は、本塾の小さな巨匠、原匠（No.5）だ。彼は1年生の頃に練習に全く参加できず日々悔しい思いをしていた。しかしそこから血と汗の滲む努力を続け、3年次には本塾のスタメンに名を連ねるまでに大成した、本塾の誇る努力の天才であり、バスケット部、いや、もはや体育会の鑑であるとも言えるだろう。そんな彼が日々磨き続け精緻を極めたスリーポイント射は、いかなる時でも美

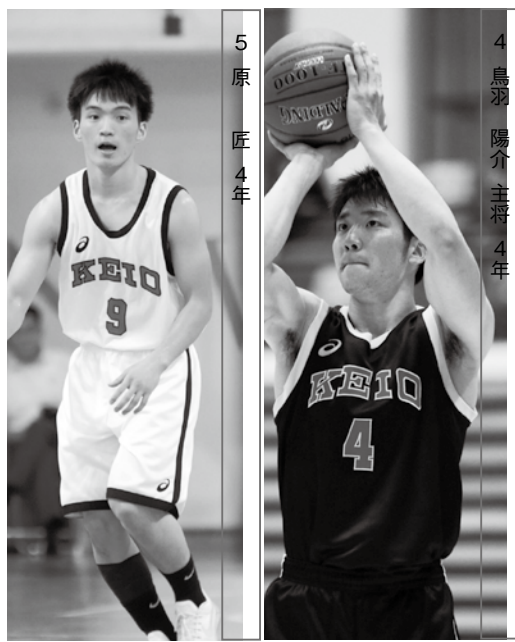


7 澤近 智也 4年

しいアーチとともにゴールへ吸い込まれるであろう。

次に、名門慶應志木高校から共に体育会の道を歩み、病める時も健やかなる時も共に過ごしてきた、永遠の志木高コンビを紹介する。

まずは本塾のカイリー・アービング、小原 陸（No.6）だ。彼の代名詞であるボールハンドリングはあのアービングに匹敵し、本塾の超絶ストリートボーラーとも謳われる。



4 鳥羽 陽介 主将 4年

5 原 匠 4年

その目にも止まらぬドリブルは相手のディフェンスと観客の度肝を抜き、さらに磨きのかかったスリーポイントも合わせて早稲田を翻弄し尽くすことだろう。

もう一人は、本塾のオースティン・マホーン、吉敷 秀太（No.8）だ。常にダイナーワーカーな彼は、卓越した身体能力を活かしたりバウンドやルーズボールでオフENSEのチャンスと観客の心をつちり掴むことだろう。死角からボールを奪い去り、隙あらば得点を狙う彼に早稲田は為す術もない筈だ。

最後にこの男、本塾の大黒柱へと成長を遂げた、土佐の禁断の果実こと澤近 智也（No.7）だ。その愛くるしい表情と方言とは裏腹に、コート上ではアドレナリン大放出の情熱的なセンタープレーと柔らかな繊細なシュートタッチという無敵の双剣を振る。必ずや早稲田から徹底マークを受けるであろうが、如何なる接触をものともせず、相手のマークを上回らばかなりの彼の気迫と活躍に目が離せないこと間違いない。

万里一空

昨年、本塾は「慎始敬終」というスローガンを掲げ、3部の舞台で懸命に戦った。惜しい試合も多々あったものの、グランドリーグで全敗、順位決定戦は2勝2敗、そして入れ替え戦で敗北し4部降格という悔しい結果に終わった。部員それぞれが苦しい日々を過ごした。

今年は、部員全員の繋がりが、そして七七の繋がりを意識した「繋」をスローガンに3部昇格に向かって日々練習頑張っている。一人一人地道な努力の積み重ねが勝利に繋がると信じ、どこにも負けないチームワークの良

繋

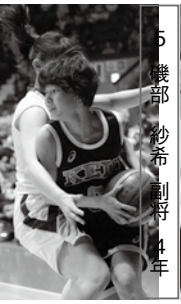
さと私達らしい明るさを生かし、日々チームの底上げを図っている。本塾が目指す「泥臭く、粘り強いバスケボール」を体現し、チーム丸となご戦う姿是非ご覧あれ！

それではこれから、チームを牽引する4年生を紹介しよう。

百花繚乱

本塾の頼れる主将、森川（No.4）。ずば抜けたバスケトポポ、ボールO.Oの確かな断力を武器にチームを確実に勝利へと導く。本塾の絶対的司令塔である。力強いドリブルからのストッパシフトは、デブエンスを圧倒するのみならず、チームメイトを鼓舞し次の確かな一本のチームの突破口となる。

スピード力のあるプレーで、チームのオフェンスを勢いづける起爆剤、磯部（No.5）。体の大きな選手に対しても怯むことなく、武器であるヒートを活かして安定感のあるハンドリングと、敵を翻弄する細かなワークワックから目が離せない！



5 磯部 紗希 副将 4年



6 今村 沙恵 4年

インサイドの絶対的支配者、豊村（No.6）。誰にでも優しく、時には天然発言でみんなを笑顔にする彼女はコートに立つと、転迫力のある力強いプレーでチームを支える。相手をおびえさせる強靱な身体と洗練された技術を兼ね備え、得点を量産する本塾の大黒柱である。優れたリバウンドへの嗅覚を持ち、力強いステップインで相手を翻弄する彼女のプレーに、皆さんが心を奪われることは間違いない。

高瀬（No.7）は、強靱なフィジカルで堂々とコート下に君臨する。地道な努力に

より作り上げられた逞しい身体とは裏腹に、彼女が放つシュートは非常に繊細で正確である。頼もしいリバウンドから次々とシュートを決める彼女のプレーが、チームの得点に大きく貢献する。

追速のスーパースター、井ノ本（No.8）。関西人の彼女は天才的な笑いのセンスを持ち、人を笑わせることにおいて彼女の右に出るものはいない。コート内外で彼女の声が響き渡り、チームをも明るくしてくれる。また、正確なシュート技術の持ち主であり、彼女の放つボールは全てリングに吸い込まれる。会場を湧かせる彼女のシュートに期待したい。

安定したスリーポイントシュートとジャンプシュートが武器の和田（No.9）。理系女子の彼女は研究室に籠もり、いつも難しい実験を行っていて、部員は尊敬の眼差しを向けている。その集中力はバスケボールにおいても活きていて、素早いモーションでシュートを放ち、ポイントゲッターとしてチームを勢いづける。さらに、大きな選手を相手にしても果敢にリバウンドに飛び込み、必死にルーズボールを追う献身的なプレーが光る。

邁進

次にチームに必要不可欠な3年生を紹介しよう。

いたずらを愛し止まない、山崎（No.12）。プレーでももちろんのこと、練習外でも先輩に怖気付くことばなく、先輩のいたずらを目撃としていく。そんな彼女が織り成すプレーは、迫力あるアウトサイドからのドライブ、そして的確なカットイン。華麗なレイアップで攻める彼女の姿是非見届けて頂きたい。

チームの努力家、重増（No.13）。いじられキャラを確立しつつも、彼女のバスケトボールに対する直向き姿勢と豊富な運動量は随一である。彼女の脚力を活かしたオフェンスリバウンド、そしてシュート確率の良さは

日々積み重ねた努力の結晶に違いない。

チームのムードメーカー、梅木（No.10）。彼女から溢れ出すアリのハへの愛と、正確なスリーポイントシュートは誰も止められない。素早い判断から走り出す速攻も見ものである。声でチームを鼓舞し、プレーで上級生としての意地を体現する彼女に期待したい。

2年生から本塾の女子バスケトボール部に入部した頃木、沙樹（No.11）。その1年間というブランクを感じさせない程のアグレッシブで安定したプレーで活躍し、チームに貢献している。などということも、誰にも止めることはできないスピード感のあるプレーに圧巻されることは間違いない。

ここからは、下級生ながらチームの大事な戦力である2年生を紹介しよう。

本塾で一番身長が低い白藤（No.15）。その可愛らしいサイズ感から、本塾のマスケットキヤクターの新たな役割を果たしている。安定したハンドリングと小さい身体を活かしたドリブルで、相手や次々とかわしボールを運ぶ姿に、観客は心を奪われるだろう。

豊村の意志を継ぐニューオーカー、梅田（No.14）。本塾一の身長を持ち主である。長い手足を活かし、高い打点から放たれるシュートは彼女の強い武器である。目には見えない精度を上げており、この成長はとどまることを知らない。早慶戦でどこまで大暴れする目が離せない。

癒しの笑顔の持ち主、足立（No.16）。誰に対しても優しく、彼女はまさに本塾の聖母。彼女のシュートの打ち方にまで優しくが込み出ている。そんなことは裏腹に、チームのような足の速さで、コートを駆け回る彼女には誰も頭が上がりません。スピードで相手を翻弄する彼女の姿は必見である。

またもやニューオーカーの登場、小福川（No.17）。彼女は練習前にバナナを食べることを絶対に欠かさない。そのお陰かほかからないが、彼女のインサイドプレーは体格の良い選手にも引けを取らずその力強さでチ

ムを何度も勝利に導いてきた。2年生ながらチームに流れをもたらす欠かせない存在である。本塾のいじられキャラの須藤（No.18）。人にはない、絶妙なリズム感の持ち主で、彼女のダンスは誰にも真似できない。ある意味頼る者を魅了する。そんな彼女は、バスケトボールの魅力を伝えるの力者である。日中考えてしまう程、負けず嫌いの努力家である。泥臭くルーズボールを追いかけて、果敢にリバウンドを取りに行く彼女の姿に観る者は魅了されるに違いない。

そして最後に、チームに新しい刺激をもたらす1年生を紹介しよう。

まずは武藤（No.19）。名門成蹊高校出身の彼女は赤面症で柔らかな雰囲気（笑）が、その空気はバスケになると変わる。綺麗なフォームからリングに吸い込まれるジャンプシュート、素早いフットワークを活かしたデブエンスが、チームに勢いを与えてくれるに違いない。

続いて眞尾（No.20）。ポーカーフェイスの彼女は、新入生ながら既に冷静で客観的な視点からチームを導いている。高身長だけでなく、正確なドリブルとバスケ武器を持つ彼女は、チームに新しい風を吹かせてくれるだろう。

そして西（No.21）。大学入学と同時に関西から上京した彼女は、ノンストップで話し続ける明るい一面を持つ一方で、練習中には誰よりも自分に厳しいストイックな一面を持つ。どんなに苦しい場面でも自らに鞭を打って戦い続ける彼女の勇姿を、ぜひご覧いただきたい。

今年のチームは、1年生から4年生まで個性豊かなメンバーが揃っている。それぞれが自らの心技を「繋」げ、そしてその一人一人が抱く勝利の執念を「繋」いでこそ早稲田へと挑む姿に、心を揺さぶられると間違いない。格上相手に果敢に挑み、戦い続ける慶應義塾体育會女子バスケトボール部の姿を最後まで是非見届けてほしい。